

成人看護学急性期実習

ナンバリング:N3-S1-E07

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 佐藤 奈美枝 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	3	区分/単位数	実習/3単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

成人看護学での講義・演習および既習の科目で学んだ知識・技術を基に、臨床場面での実習を行う。成人期にある患者およびその家族等を急性期の臨床の現場で受け持ち、看護過程を通して対象理解を深める。そして、臨床の看護師の援助を受けながらエビデンスに基づく看護ケアを実践する。その際、臨床場面を通して、看護師の優先順位や時間管理を考えながら臨床判断や問題解決を行う場面を見て、学びを深める。

・教育成果(アウトカム)

生命の危機状態および周手術期にある患者と家族の特性を、身体的・心理的・社会的側面から統合的にアセスメントし、潜在的・顕在的な健康問題を抽出することができる。また、手術や侵襲によって生じる合併症や二次的障害を理解し、その予防および回復促進を目的とした看護援助を実践することができる。さらに、社会復帰を目指す患者と家族の生活の再構築を支援するための看護を実践することができる。そして、クリティカルケアを行う医療現場において、質の高い看護を提供するために必要なコミュニケーションスキルを活用することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6	災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 生命の危機状態および周手術期にある患者を、身体的・心理的・社会的側面からアセスメントできる。
2. 受け持ち患者の病態や症状を踏まえ、急性期における看護過程を展開できる。
3. 根拠に基づいた看護を提供するために理論的知識や先行研究を活用し、臨床看護師の指導の下で看護援助を実践できる。
4. チーム医療における看護および多職種の役割と連携について説明できる。
5. 受け持ち患者の看護実践を振り返り、学びや自身の看護観を言語化することができる。

・実習日程

日程	各グループの実習期間は実習要項等に記載する。
担当教員	共通基盤看護学講座 佐藤 奈美枝 教授 伊藤 奈央 准教授 小坂 未来 講師 三上 邦子 講師 畑中 るり子 助教

授業内容/到達目標	<p>【授業内容】 3週間の実習期間中、一般病棟または集中治療部において急性期または周手術期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。また、手術部および集中治療部の看護師へのシャドウイングを通して、看護師の役割やチーム医療について学修する。実習最終日には、受け持ち患者の看護過程のプレゼンテーションを行ない、看護実践の振り返りと学びを共有する。</p> <p>【到達目標】 ＜1週目＞ ・手術部および集中治療部の看護師の役割を説明できる。 ・急性期および周手術期における多職種との連携について説明できる。 ＜2～3週目＞ ・急性期または周手術期の患者を受け持ち、看護過程を展開できる。 ・臨床看護師の指導の下、根拠に基づいた看護援助を実践できる。 ・カンファレンスやプレゼンテーション、課題レポートの作成を通して、行った看護実践の根拠や自身の看護観について他者に伝えることができる。</p> <p>【関連するSBO】1、2、3、4、5 【事前学修：60分/日】事前に配布する「手術部シャドウイング事前学修用紙」「集中治療部シャドウイング事前学修用紙」の項目を調べてまとめる。また、実習に関連する病態生理や援助技術などについてテキストや文献等で調べる。 【事後学修：90分/日】カンファレンスでの助言を振り返りながら、看護過程の展開、中央手術部および集中治療部のシャドウイングで学修した看護師の役割や多職種連携について、実習記録に記載する。</p>
-----------	--

・教科書・参考書等

		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護学テキストNICE 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 改訂第4版	林直子, 佐藤まゆみ 編	南江堂	2023
教	看護学テキストNICE 成人看護学 急性期看護 II クリティカルケア 改訂第4版	佐藤まゆみ, 林直子 編	南江堂	2023
教	看護学テキストNICE 成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める 改訂第3版	野崎真奈美 他	南江堂	2022

・成績評価方法

<p>【総括的評価】 成人看護学急性期実習評価表に示した評価基準に沿って、対象理解、看護過程の展開、急性期の看護、実習への取り組みの4項目について、学生の行動および実習記録の記載内容をもとに評価する。評価の割合は、対象理解10%、看護過程の展開35%、急性期の看護15%、実習への取り組み40%の計100%とする(実習評価表参照)。あわせて、実習施設からの実習態度や看護実践に関する評価を踏まえ、教員が総合的に成績評価を行う。</p> <p>【形成的評価】 実習期間中に提出する実習記録から、学修の成果を確認する。また、教員との面談において、看護過程の進捗状況、実習目標の到達度について確認を行う。</p>								
DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他	合計
1～8	1～5						100	100
合計		0	0	0	0	0	100	100
<p>〈備考〉実習評価表(ルーブリック評価表)参照</p>								

・特記事項・その他

<p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日提出される実習記録には、当日中にコメントを付して返却する。 ・毎日行われる学生カンファレンスに参加し、助言およびコメントを伝える。 ・実習最終日に行う合同プレゼンテーションでは、学生の発表や意見交換の後に臨床看護師および担当教員からフィードバックする。 ・課題レポート、プレゼンテーション資料は指定する期日までにWebClassから提出する。 <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):臨地実習 成人看護学</p> <p>【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			